

O unico encontro na vida

ブラジル通信 No.11 2016. 11. 20

楽しく、懐かしいひととき 『帰国者の会』

日本から帰国した子どもとその保護者、日本で研修をした教員が市教育局に集まりました。つい先日まで、岩田小学校をはじめとして、多くの学校でご指導をいただいた〔アンドレイア研修員（後列左）〕も、大須観音で購入したJapanTシャツを着て、元気な姿を見せてくれました。

豊橋市紹介用DVDと小学校生活の一日を収めた動画を視聴後、自己紹介やゲーム、ビンゴ大会などをして約2時間の楽しいときを過ごしました。歓談中は、日本在住時の懐かしい話などで、あちらこちらで花が咲いていました。

参加者は本会の開催を待ち遠しく思っており、今後も継続していく必要性を感じました。その一方で、市教育局担当者と本会の情宣方法等について検討を加える必要性も痛感しました。



会の最後に、記念写真をみなさんと

[叱る：褒める] = [0：10] で子どもを伸ばす



18校での授業観察を通して、教師が子どもを注意したり叱ったりする場面の多いことが気になりました。〔注意する、叱る：褒める〕の割合が〔9：1〕くらいだったのでしょうか。教育を取り巻く環境が違うとはいえ、しだいに辛く悲しい気持ちになってきました。そんな背景も手伝って、体育の授業実践では『子どもを褒める（通信No.9に同意文を掲載）』ことに重点をおくことにしました。

今回は、岩田小学校と作品交流をしている『ノエミア校』での4年生授業でした。来日経験のあるクリスライネ先生が参観をしているので、指導方法等を伝えるにはもってこいのタイミングでした。

■一場面を紹介します。【種目：折り返しリレー（4人×5チーム）】

順位決定方法は、4人目がゴールして、1列に並んで座っていたチームが優勝です。Cチームがいちばん速くゴールしましたが、3番目にゴールしたBチームが優勝となり、Cチームは3位になりました。

ねらいどおりの展開です。全員を集めて、優勝したBチームに優勝した理由を言わせたところ、子どもたちは納得した表情をしました。ここで、Bチームの4人を褒めました。その後もレースは続き、全レース終了後、ルールをきちんと理解してやり終えた全員を褒めました。



体ジャンケンで罰ゲームをする教員



豊橋市教育関連の説明と交流事業総括

小学校生活・学習の様子や教育課程等について、映像を視聴しながら説明を加え、質疑も受けました。給食や清掃場面、1週間の日課等への注目度が高かったよう感じました。その後、今回の交流を終えての感想や意見、要望等（※⇒）について述べました。

⇒① 指導技術向上のため、研修を計画する。（現状、校長やベダゴガが担任等を指導している）

※アンドレイア研修員が全18校を訪問し、日本での研修報告等を行う予定です。

⇒② 州立学校と市立学校との連携を図る。（個人情報を引き継いだり共有したりするシステムがない）

⇒③ 「叱る」から「褒める」に、「教え込む」から「考えさせる」に、指導方法をシフトする。

⇒④ 学級や学校をきれいにする活動を取り入れる。

▼42日間滞在したマンジョッカ(芋類)畑のまち、パラナヴァイ市をあとにして、クリチバ市へGo!!